●安曇地区●
710世帯
男　707人
女　699人
合計　1406人
R2.11.1現在

公民館講座 奈川渡ダムで一日楽しみながら ダムの流木でオリジナルグッズをつくろう 11/3

サンタやトナカイ、松ぼっくりを飾ればこれからの季節にピッタリ!

東京電力リニューアブルパワー㈱松本事業所の協力で、普段は入ることができない奈川渡ダム内部の見学や、ダムに流れつく流木の処理について学びました。

紅葉が見頃の旧梓川テプコ館の5階を特別にお借りして、各自流木でオリジナルグッズの製作をしました。

長さやねじれ方も様々な流木。イメージ通り作れるでしょうか。

揚水発電の動力について
「皆さんの足もとに見えるシャフトをまわして、水をくみ上げています。」

祭りだ! 大野田子どもみこし 10/5

皆元気よくワッショイ! ワッショイ!!

公民館講座 のりくら陶芸教室 ～タタラ板でカップ&ソーサーを作る～ 9/1～10/20

4回に渡って開催されたのりくら陶芸教室では、粘土を板状にした、たたら板を使ってカップとソーサーを作りました。苦労もありましたが、無事完成した作品を前に参加者の皆さんは満面の笑みを浮かべていました。最終日の記念撮影の後は、自分で作った作品を実際に使ってお茶会を開催しました。

乗鞍に透明ドームが出現!!

中部山岳国立公園内の自然と一体となった、フレームレス透明ドーム「AURADOME」を拠点に、月灯りや星空を見たり、朝の匂いを感じたり…。㈱信州未来づくりカンパニーはアルプス山岳郷エリア乗鞍地区での滞在促進を目的に、五感を刺激する憩いのカフェスペース"Norikura NATURE DOME"を2020年秋、期間限定でオープン。このドームは、単なる飲食スペースとしてだけではなく、朝・夜のアクティビティの出発／到着の拠点となり、アクティビティ後の疲れた心と体を癒す空間としてもお楽しみいただけます。

★あづみへようこそ★④

食を提供することが大好きです!

田中 雅之
雅子

「分け入っても　分け入っても　青い山」大阪から松本市安曇島々に移り住んだ時、山頭火のこんな句が頭をよぎりました。果たして、この土地で暮らしていけるのかな?

しかし、それは杞憂でした。都会にはない人とのつながりがここにはありました。清掃を含めた社会活動。様々なイベント、春は桜まつり、夏には花火まつり。参加する意欲さえあれば良かったのです。

幸いなことに私の連れ合いは器用な人で、人に食を提供することが大好きです。そこで、おまつりで屋台を出すことを決めました。

まず手始めに窯で焼いた本格ピザ。次の年は大阪の本場の串カツ（これはソース二度づけ禁止というもの）又、大タコのたこ焼も何度か島々の方々に味わっていただきました。

コロナが収束しましたら、B級グルメを楽しんでいただきたいです。

大町中乗峰

コロナ禍での乗峰祭

今年の乗峰祭のテーマは「輪～今こそつながる時～」です。今、世界中で拡散し続けている新型コロナウイルスの影響により、不要不急の外出が出来なくなっている中、みんなで輪になり支え合おうという思いを込めて、このテーマにしました。午前には音楽会、午後には体育祭がありました。コロナの関係もあって地域での運動会が無くなってしまったので、この日に移したという経緯もありました。

音楽会では、飛沫感染の恐れがあるため、マウスシールドを着用して歌いました。歌いにくい中、みんな楽しく歌っていたので、とても盛り上がって良かったです。練習の成果を十分に発揮してもらいました。

この日は、雨がふっていたため、体育祭は体育館で行われました。種目の中にある玉入れ合戦、障害物競走は保護者の方も参加してくださいました。最後に行われたお父さん達のリレーは特に面白かったです。

体育祭のあとには僕たち中学生によるダンス発表がありました。練習時間が短かったのですが、難しいダンスを踊りきることが出来ました。見ている人たちを楽しませることが出来たのではないかなと思います。

最後は、閉祭式の中で全校制作の発表がありました。今年は、みんなが書いてくれた願いを花火の形に貼り付けました。さらに、それには蛍光塗料を塗り、本番ではブラックライトで照らしました。「たまや～！」のかけ声とともに花火が浮かび上がり、体育館に「お～!!」という声が上がりました。僕はステージ裏で仕事をしていたためその様子は見られませんでしたが、その声や会場の雰囲気から成功したのだと感じました。

今年はコロナ禍での乗峰祭でしたが、こんな時期ならではの乗峰祭もあるのだと思いました。多くの人の協力があったおかげでとても盛り上がる乗峰祭にできました。

（3年　斉藤具海）

安曇小中学校

元気な安曇っこ

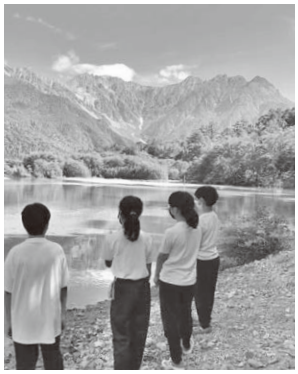
安曇小学校では、それぞれの学年が上高地に足を運び、上高地の自然に触れながら学習をおこなっています。

6年生は、美しい大正池の景観が近年の豪雨による土砂流入で埋まっていってしまうこと、そしてその土砂を取り除いている方々がいることを知ります。自分たちもこの現状をたくさんの方に知ってほしいと強く思い、ビン詰めにした「上高地サンド（大正池の砂）」と現状を知っていただくための手書きのプリントを、風穴の里で観光客の皆さんに配りました。

風穴の里での配付を終えて
（学習カードより）

◆たくさんの人に大正池の現状を知っていただくことができた。

◆難しかったのは、砂の魅力を伝えるのと、お客さんの反応に合わせることです。

◆「これはすごいね」と言って「友だちを呼んでくるね、待っててね」そしたら本当に3人の人が来てくれて、私は感謝しかなかった。

◆思ったよりも「色無し砂」があまったので、また今度は「色無し砂」をメインで配付したい。